



2007. March 3月号
 発行日：平成19年3月1日
 発行：東京税理士会
 情報システム委員会
 題字：金井塚 清 (豊島)

最新のパソコン環境!

Windows Vista と the 2007 Microsoft Office system について

コンピュータというのはハードウェアとソフトウェアで構成されています。このソフトウェアには、OS (オーエス) という基本ソフトとワープロや表計算のようなアプリケーションソフト (応用ソフト) があります。平成19年1月30日に新しいソフトウェアが発売されました。一つは「Windows VISTA」 (以下「Vista」) というOSでもう一つは「the 2007 Microsoft Office system」 (以下「Office 2007」) です。どちらも数年ぶりの大規模なバージョンアップで、今後のパソコンでは主流になることでしょう。

エディションの種類		Home Basic	Home Premium	Business	Ultimate
注目の新機能					
Aero (エアロ)	立体や半透明表示の視覚効果	×	○	○	○
メディアセンター	写真、音楽、動画等のAV処理ソフト	×	○	×	○
DVDメーカー	DVDビデオ作成	×	○	×	○
保護者制限	ユーザーごとの利用制限	○	○	×	○
タブレット機能	手書き入力制限	×	○	○	○
ドメイン参加	高度なユーザー管理	×	×	○	○
データ暗号化	ファイル単位の暗号化	×	×	○	○
シャドウコピー	ファイルバックアップ機能	×	×	○	○
ビットロッカー	ドライブ暗号化による情報漏えい対策機能	×	×	×	○

税理士業務でどれだけ役に立つのかを考えると、劇的な向上どころか、非効率になることも大いに予想されます。これは機能が悪いのではなく、新しいものを効率よく使う場合には、使う人の慣れや経験が必要だからです。

この新しいソフトは有効な機能に溢れており、いずれは誰もが当たり前のように利用することになるでしょう。周辺の人たちも新しいものを使ってデータを交換するようになるでしょうし、新しいものについて問いかけられることもあるはずで、あまりに専門的な知識まで習得することはないでしょうが、ある程度の情報を習得し、購入する場合の注意点を提供できることは大切なことだと思います。

以前の「Windows XP」 (以下「XP」) では、大きく分けて「Home Edition」 (以下「Home」) と「Professional」 (以下「Pro」) でしたが、Vista では、一般に購入できるバージョンでも4つあります。当然機能と値段が違いますが、その機能を判断して購入することが肝心です。単に値段を判断基準にすると、購入後に思惑違いになることが想像されます。

* Vista のバージョン比較 (一般購入可能版)

- ・ Home Basic : 最小構成で、Aero 機能はない..... 3万円弱
 - ・ Home Premium : 個人向きで、娯楽要素の機能..... 3万円強
 - ・ Business : ビジネス向きで、セキュリティ機能..... 4万円程度
 - ・ Ultimate : すべての要素を備えた最上位版..... 5万円強
- (注) 金額は通常版で、アップグレード版は3分の2程度

上記のようなバージョンがあるのですが、現在利用中のパソコンを Vista にアップグレードすると、新たに Vista 搭載パソコンを購入することが考えられます。それぞれの注意点について考えてみましょう。

* アップグレードする場合の注意点

アップグレードする場合の注意点として、Vista では Aero 機能という、3Dグラフィックでの表示や半透明のウィンドウなど視覚に訴えるため、グラフィック関係の強化が必須です。XP をインストールしているパソコンで、グラフィック関係が貧弱な場合は、この Aero 機能は作動しないことになるでしょう。結論として、グラフィック関係の機能とメモリの搭載量などを習熟者に確認した上でアップグレードすることをお勧めします。

アップグレードする場合には、現在使用中のOSによって、アップグレードでき

る Vista に違いがあります。Home は前述のすべてのバージョンに対応していますが、Pro は Business と Ultimate にしか対応していません。その他 MediaCenter とか TabletPC や x64 はそれぞれに応じた対応で、Windows 2000 Professional は対応していません。

* 新規購入する場合の注意点

新規購入の注意点として、グラフィック関係については最初から Vista を搭載しているのであれば、最低限の仕様は満たしていると想定されますので、そのパソコンにインストールされているOSのバージョンとメモリの容量を確認してください。OSのバージョンについては前述の資料を参考にしてください。

基本的な判断として、家庭用なら Home Premium で、業務用なら Business、予算に余裕があれば、用途に関係なく Ultimate を選択しておけばいいでしょう。積極的に Home Basic を選択する理由は安いということ以外考えられません。

メモリの容量ですが、発売時には 512MB という容量が想定されますが、最低でも 1GB に増設してください。予算に余裕があれば 2GB にすることをお勧めします。

比較的廉価な機種は、Home Basic でメモリ 512MB というのが多く見受けられます。その他は、Home Premium でメモリは 512MB から 1GB というのが一般的です。売りがやすくなるために低価格を設定すると、最低限の Vista (Home Basic) になり、一般的な機種は Home Premium で、Business を搭載しているのは極少数になっています。Ultimate を前面に押し出している機種は見受けられないのですが、オンラインで購入する場合は OS を変更できることが多いようです。その機種のホームページを参照して、自分の目的に適合しているかどうかを確認してから判断してください。

* セキュリティ機能の強化

Vista は XP に比べて、セキュリティ機能が大幅に強化されています。スパイウェア対策の「Windows Defender」、フィッシング詐欺対策機能の「Internet Explorer 7」、迷惑メール対策機能が付加された「Windows Mail」、不用意な書換等に対する「ユーザーアカウント制御」、利用時間や利用ソフトを制限できる「保護者による制限」のように、多くのセキュリティ機能が強化されました。

ウイルス対策機能は含まれていませんので、各自の環境に応じたソフトをインストールすることをお勧めしますが、無料のソフトでも効果は十分期待できます。Windows Update を行うことは、パソコンを利用するにあたっての最低限の条件ですので、自動更新を設定していても、定期的に手動による確認も大切です。

* Office 2007 の進化

Vista だけでなく、Office 2007 が同日に発売されました。今回のバージョンアップは大きなもので、旧バージョンを使い慣れた人にとっては戸惑う場面もあるかもしれません。しかし使い慣れてくれば、作業効率は向上することでしょう。

次の大きな変革はファイルの拡張子の変更です。今まではエクセルは xls という拡張子でしたが、Office 2007 ではxlsx というのが標準になりました。ファイルの仕様も XML をベースとしたものに変更され、圧縮することを標準としているので、今までに比べてファイルサイズも小さくなっています。

エクセルの表は 1,048,576 行 × 16,384 列という巨大な大きさになり、SUMIFS のような新しい関数や、関数のネスト階層 7 から 64 に広がり、条件付き書式も大きく改良されたことで、より柔軟なシートを作成できます。

Office 2007 は旧バージョンを読み込むことはできますが、旧バージョンでは、新しいxlsx という拡張子のエクセルファイルは、そのままでは読み込めないで、指示に従って別途インストールが必要です。Office 2007 で作成した場合でも、旧バージョンでの仕様によるファイル保存は可能ですので、場合によっては相手方に保存しなおしてもらおうことも考えられます。当然新機能は作動できませんので、暫時 Office 2007 の導入を検討してください。

* ワイド画面の勧め

パソコンではデュアルディスプレイが便利ですが、Vista ではワイド画面を前提に構築されている感じがします。1680 × 1050 の解像度の場合、一台でもデュアルの効果も期待できますので、安くなってきた 22 インチ以上のディスプレイをお試しください。